

2013リトルリーグ インターミディエット部門

アジア・パシフィック大会の参加について

インターミディエット日本代表コーチ 佐藤 克士

今回のアジア・パシフィック大会は、初めて、リトルリーグのメジャー以上の全カテゴリーで開催。（1995年に参加した極東選手権大会はメジャー部門だけであった）

野球部門として

リトルメジャー（11歳－12歳）
インターミディエット（11歳－13歳）
ジュニア（12歳－14歳）
シニア（13歳－16歳）
ビッグ（14歳－18歳）

ソフトボール部門《女子》

ジュニア（12歳－14歳）
シニア（13歳－16歳）
ビッグ（14歳－18歳）

15カ国約40数チームの参加。そのせいか、全員が初体験。

インターミディエット（50－70）部門での参加、参加国が6カ国しかなかったというのは、日本でもそうでしたが、このアジアでも多分それぞれの国が、十分な準備ができない状態での参加であったように感じました。

いろいろと不備はありましたが、フィリピンリトルリーグ野球協会の皆さまのおかげで、すごく心に残る大会になり、参加できたことに喜びを感じています。

あらためて世界における、リトルリーグの組織の大きさと、リトルリーグのメンバーで良かったと実感できました。

また、この年齢の選手が、本格的な野球に移行する、このクラス（インターミディエット：中位）のこれからの伸びしろは、無限大のような気がします。

本大会における泉佐野リーグは、予選5試合すべてコールド勝ちという結果でありましたが、点差ほどの楽なゲームは、できていません。相手チームの1番手投手はなかなか打てず、投手交代などのベンチワークの難しさと、体格の差、パワーの差を実感しました。外国チームの肩の強さとスイングの速さは、怖いほどでした。

これからアメリカでのゲームとなりますが、アメリカでは、早い時期から、この部門（50－70）に取り組んでおり、アジア大会のように、楽にゲームができないように思います。

泉佐野野球がどれくらい通用するのかは、本当に楽しみです。

リトルリーグメジャーの部では、なかなか関東のチームにも太刀打ちできませんが、今回チャンスを頂いた、この大会では、日本代表として大暴れしてきたいと思います。

2013. 7. 13

泉佐野リトルリーグ メジャー監督

兼 インターミディエットコーチ 佐藤 克士